

それが問題

訳詞：幸若晴子

数式なんて かんたん
テストだって むずかしくない

難問はさ
愛ってやつだ

僕はあいつが 好きだけど
あいつは ほかの奴が好き

まったくもって
それが問題

【解説】

彼は、バスケット部キャプテン。スポーツ万能。成績も 10 番内。もてました。しかし、彼の好きな女の子は、補欠の彼の友だちが好きだったので -

【訳詞について】

残念ながら「愛、恋」というタイトルではありません。生徒に訳させると、誰一人「愛、恋」とは書きません。詩人になったつもりで訳すのですから -

文脈をしっかりと読み取っていれば、「問題」とか「難問」になります。

しかし、残念ながら教師のワークショップで書いていただくと、ほとんどの方が「愛、恋」と書かれます。

なぜでしょう。

それは、「正確に訳さなければ」という思いが強く、前にもっていたはずの「遊び心」がなくなっているからです。

ふたりだけの ひみつ

訳詞：幸若晴子

泣いたんだ
ほんとうに かなしくて

こっそり泣いた
たったひとりで -

ただ 空だけが見てた

空とぼく
ふたりだけの ひみつ

【解説】

書いたのは女の子。しかし、詩人の幸若さんはぼくと訳した。彼女の勝ち気な性格を読み取り、それを「ぼく」の一言で表したのです。

【子どもの感受性】

子どもたちは、感受性があふれています。

本をたくさん読む。
グループで話し合いを深め、気づきをつくる。
自分の思いを表出し、鑑賞し合う。

彼らの表現力は、表現力豊かな教師の指導からしか生まれてきません。まずは、大人が感動できる心を磨くことからスタートです。

【訳詞について】

何よりシンプルです。
無駄な部分、余分な修飾がありません。

音読するとすぐに分かります。
リズムがあるのです。

だから、読んでいて心地よいのです。

私たちは、ことばを使って、ことばを教えています。

教師の使うことばや親の使うことばが豊かであれば、子どもたちもみるみる育っていきます。

ことばを教える時は、正しさも大切ですが、一方で「駄洒落」などを、みんなで楽しめるようなクラスづくりも必要なのではないでしょうか。